



2018年11月15日

報道関係各社

Napajen Pharma 株式会社

核酸医薬品 NJA-730 臨床試験開始のお知らせ

Napajen Pharma 株式会社(本社：東京都小金井市、代表取締役社長：安藤弘法、以下「当社」)は、核酸医薬品(当社開発コード：NJA-730)について、オーストラリアにおける第1相臨床試験において最初の被験者への投与を実施しましたので、お知らせいたします。

NJA-730 は、体内での免疫反応の司令塔と言われる樹状細胞やマクロファージなどを標的として、それらの細胞がもつ CD-40 というタンパク質の遺伝子の働きを特異的に抑制することにより、骨髄の造血幹細胞の移植時に起こる急性期移植片対宿主病 (GvHD) や臓器移植に伴う拒絶反応の抑制剤などへの応用が考えられています。

サルを使った毒性試験では、ヒトへの想定投与量の 100 倍以上を投与しても毒性は認められず、極めて高い安全性が示され、また別のサルを用いた実験では、血中の標的細胞内で CD-40 遺伝子の働きを特異的に抑制することも確認されました。本試験では、ヒトへの安全性を確認するとともに、CD-40 遺伝子の働きの抑制も検証します。

近年、大型の核酸医薬品が米国で相次いで承認されるなど、核酸医薬が注目されていますが、従来の核酸医薬品は体内で不安定であり、また輸送方法も標的特異性に欠けるため、大量に薬剤が必要であったり、副作用を起こしやすいという課題がありました。これに対し、NJA-730 は、スエヒロタケというキノコ類が産生する糖鎖(シゾフィラン)と核酸からなる複合体で、樹状細胞やマクロファージなどの細胞表面上にある Dectin-1 というレセプターにより特異的に認識され細胞内に取り込まれます。そのため、主に標的細胞薬剤を輸送できるという利点があり、従来よりもわずかな量の薬剤で効果を示し、かつ副作用も少ないことが期待されています。

当社は、米国カリフォルニア州に本社を置くバイオ医薬企業の日本法人で、核酸化合物を安定的に標的細胞に送達する独自のプラットフォーム技術を有しています。2004年に設立され、活動の主体は小金井市の東京農工大学のキャンパス内にあり、従業員数は約 20 名です。今回臨床試験が開始される NJA-730 は自社での開発を目指す一方、今後はプラットフォーム技術を使って、広く他企業や大学などとの共同研究や共同開発を展開し、新しい核酸医薬品の創生を目指しています。

<本件に関する問い合わせ先>

Napajen Pharma 株式会社 研究開発部門 遠藤

住所：東京都小金井市中町 2-24-16 URAC1204

電話：042-388-7381

コーポレートウェブサイト：<http://napajen.com>